

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第48週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は1,240人( 定点あたり37.9 )  
で、前週比120%と増加した。

前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎と水痘で、  
減少した主な疾患は手足口病であった。

インフルエンザ・小児科定点からの報告

### 【感染性胃腸炎】

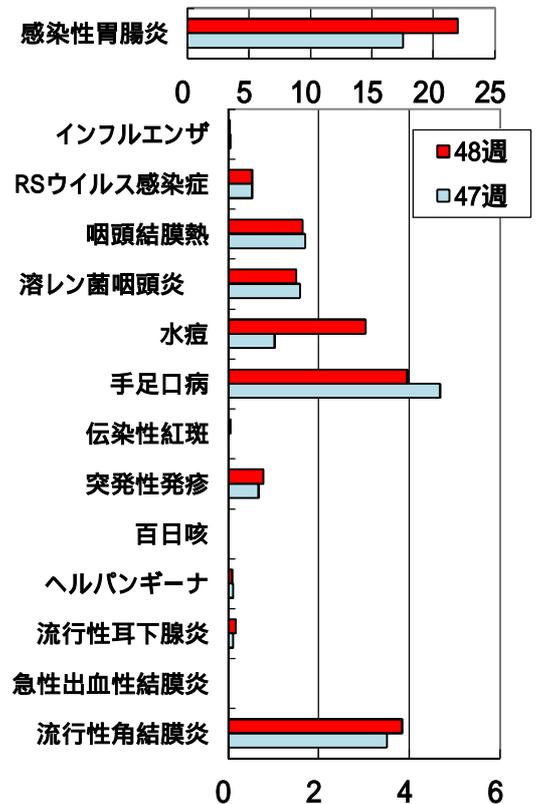
・報告数は 791 人 ( 22.0 ) で前週比 126% と増加し、県全体で流行警報レベル開始基準値を超えた。例年同時期の定点あたり平均値\* ( 15.7 ) の約 1.4 倍である。高千穂 ( 41.0 )、小林 ( 35.0 )、日南 ( 34.7 ) 保健所からの報告が多い。年齢別では 1 歳から 5 歳が全体の約 7 割を占めた。

### 【水痘】

・報告数は 109 人 ( 3.0 ) で前週比 295% と増加したが、例年同時期の定点あたり平均値\* ( 2.8 ) の約 1.1 倍である。日南 ( 8.3 ) 保健所からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳が全体の約 8 割を占めた。

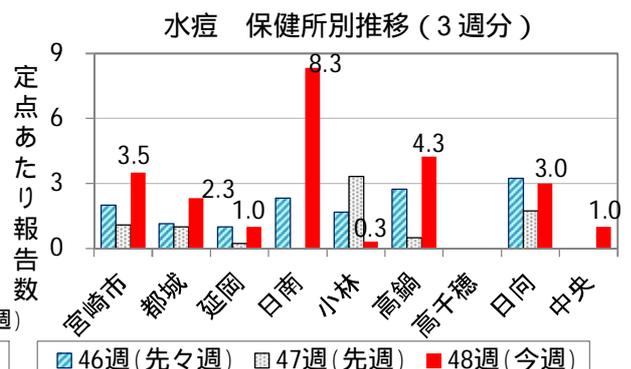
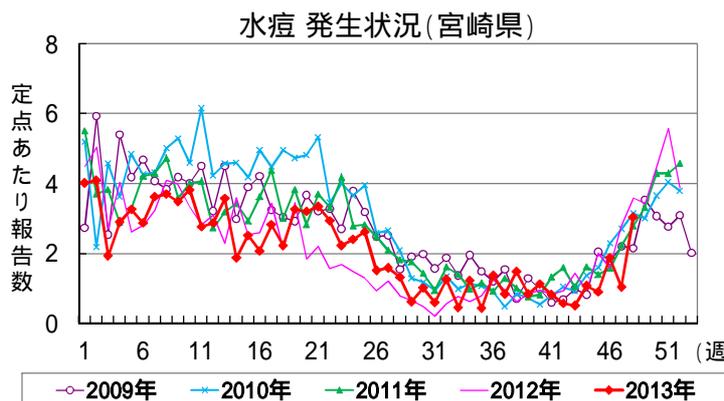
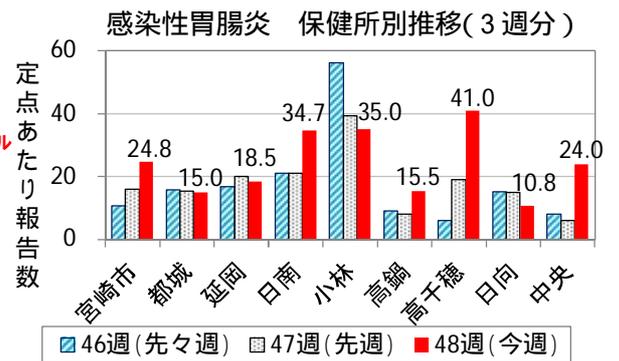
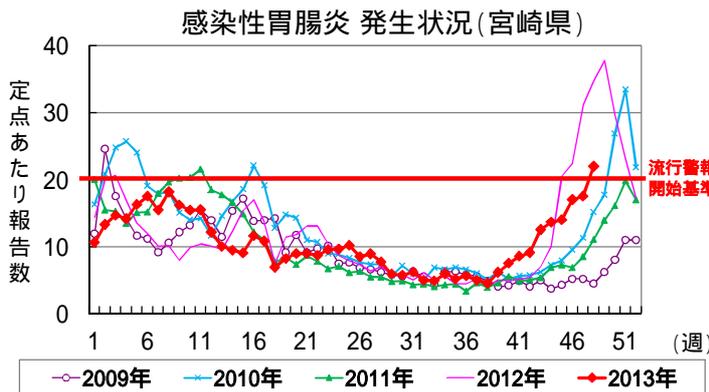
\* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 ( 計 15 週 ) の平均値

(前週との比較)



定点あたり報告数

( A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 )



## 基幹定点からの報告

細菌性髄膜炎：宮崎市保健所管内で1人報告された。患者は月齢1ヶ月で、原因菌は *Streptococcus group G*。

無菌性髄膜炎：宮崎市保健所管内で1人報告された。患者は3歳で、病原体不明。

## 流行警報レベル開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報レベル開始基準値超過疾患
宮崎市	感染性胃腸炎(24.8)
都城	咽頭結膜熱(3.5)、手足口病(6.2)
延岡	手足口病(5.8)
日南	咽頭結膜熱(6.0)、感染性胃腸炎(34.7)、水痘(8.3)、手足口病(5.7)
小林	感染性胃腸炎(35.0)
高鍋	手足口病(5.3)
高千穂	感染性胃腸炎(41.0)
日向	なし
中央	感染性胃腸炎(24.0)

\* 流行警報レベル開始基準値 \*

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・水痘(7.0)
- ・手足口病(5.0)

## 全数把握対象疾患（48週までに届出のあったもの）

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 5 例。
- 3 類感染症： 報告なし。
- 4 類感染症： つつが虫病 3 例。
- 5 類感染症： 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、梅毒 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	50 歳代	肺結核	咳
			60 歳代	肺結核	咳、痰
		延岡	50 歳代	肺結核	なし
			70 歳代	肺結核	なし
		日南	80 歳代	肺結核	痰
4類	つつが虫病	小林	50 歳代	患者	頭痛、発熱、発疹
			50 歳代	患者	頭痛、発熱、刺し口、発疹
			60 歳代	患者	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	都城	80 歳代	患者	ショック、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC 血清群：A群
	梅毒	日向	50 歳代	早期顕症梅毒（期）	初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）

## 病原体情報（衛生環境研究所微生物部 2013年12月1日までに検出）

ウイルス  
報告なし。

## 細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
腸管出血性大腸菌(O121:H19 VT2)	0~4	女	2013.11.6	腹痛、血便、水様性下痢	便	2013.11.15
腸管出血性大腸菌(OUT:H11 VT1)	80歳代	男	2013.11.9	EHEC疑、腹痛、血便	便	2013.11.15
腸管出血性大腸菌(O121:H19 VT2)	0~4	男	2013.11.8	腹痛、血便、水様性下痢	便	2013.11.15
腸管毒素原性大腸菌(OUT:H9 STp)	0~4	男	2013.11.13	EHEC疑、下痢	便	2013.11.19
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	0~4	女	2013.11.19		便	2013.11.22
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	男	2013.11.20	連続性咳そう、whoop	後鼻腔分泌物	2013.11.20
<i>Salmonella</i> Corvallis (O8:z4,z23:-)	30歳代	男	2013.11.20		便	2013.11.25

腹痛、血便等を発症した幼児2名および80代の男性患者から腸管出血性大腸菌(EHEC)が分離された。EHECの感染リスクが最も高いのは夏期であり、当所でも7月に13例、8月に18例、9月に38例が検出されている。しかし、EHECは冬季でも患者発生が見られること、少ない菌数で感染が成立することから、年間を通じて注意する必要がある。

## 全国第47週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は14.1で、前週比111%と増加した。今週増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は手足口病であった。

インフルエンザの報告数は1,319人(0.27)で前週比193%と増加した。北海道(1.3)、沖縄県(0.95)、佐賀県(0.82)からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の26%、6-9歳が24%、10-14歳が14%、15-19歳が4%、20歳以上が32%を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は21,088人(6.7)で前週比117%と増加した。宮崎県(17.5)、熊本県(11.7)、富山県(11.6)からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳が全体の約半数を占めた。

### 全数把握対象疾患(全国第47週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	356例				
3類感染症	細菌性赤痢	2例	腸管出血性大腸菌感染症	50例	腸チフス	1例
	パラチフス	1例				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	2例	コクシジオイデス症	1例
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	18例	デング熱	4例
	日本紅斑熱	2例	マラリア	1例	ライム病	1例
	レジオネラ症	24例	レプトスピラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	9例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎	1例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例	後天性免疫不全症候群	16例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	21例	梅毒	11例
	風疹	6例	麻疹	1例		

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2013年 第48週(11月25日～12月01日)

疾病名		第47週	第48週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3	2	1					1			
	定点あたり	0.05	0.03	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	19	19	7		2	2		1	4	3	
	定点あたり	0.53	0.53	0.70	0.00	0.50	0.67	0.00	0.25	4.00	0.75	0.00
咽頭結膜熱	報告数	61	59	13	21	4	18				3	
	定点あたり	1.69	1.64	1.30	3.50	1.00	6.00	0.00	0.00	0.00	0.75	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	57	54	12	3	19	2	1	4	3	10	
	定点あたり	1.58	1.50	1.20	0.50	4.75	0.67	0.33	1.00	3.00	2.50	0.00
感染性胃腸炎	報告数	630	791	248	90	74	104	105	62	41	43	24
	定点あたり	17.50	21.97	24.80	15.00	18.50	34.67	35.00	15.50	41.00	10.75	24.00
水痘	報告数	37	109	35	14	4	25	1	17		12	1
	定点あたり	1.03	3.03	3.50	2.33	1.00	8.33	0.33	4.25	0.00	3.00	1.00
手足口病	報告数	168	142	17	37	23	17	7	21		19	1
	定点あたり	4.67	3.94	1.70	6.17	5.75	5.67	2.33	5.25	0.00	4.75	1.00
伝染性紅斑	報告数		2	1							1	
	定点あたり	0.00	0.06	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
突発性発しん	報告数	24	28	7	8		3	2	5		2	1
	定点あたり	0.67	0.78	0.70	1.33	0.00	1.00	0.67	1.25	0.00	0.50	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	4	3			2	1					
	定点あたり	0.11	0.08	0.00	0.00	0.50	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	4	6	2	2	1					1	
	定点あたり	0.11	0.17	0.20	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜 炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	21	23	18	3	2						
	定点あたり	3.50	3.83	6.00	1.50	2.00						
細菌性髄膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺 炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2013年第1週～48週)

2類感染症	急性灰白髄炎	1例	結核	234例(5)		
3類感染症	コレラ	1例	腸管出血性大腸菌感染症	94例		
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	4例
	つつが虫病	12例(3)	デング熱	3例	日本紅斑熱	10例
	レジオネラ症	8例	レプトスピラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	11例	ウイルス性肝炎	3例	急性脳炎	7例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例(1)	後天性免疫不全症候群	8例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	2例	梅毒	9例(1)
	破傷風	4例	風しん	23例		

( )内は今週届出分、再掲

感染症流行予測調査事業の一環として、2013/2014 年のインフルエンザ流行シーズン前における県内の抗体保有状況調査を宮崎県健康づくり協会および県立宮崎病院の協力を得て実施した。

調査では、9 年齢群・280 名（0～4 歳：52 名、5～9 歳：21 名、10～14 歳：25 名、15～19 歳：26 名、20～29 歳：49 名、30～39 歳：26 名、40～49 歳：25 名、50～59 歳：31 名、60 歳以上：25 名）から同意を得て、2013 年 7 月 8 日から 9 月 2 日に収集した血清を対象とした。また、下記の 4 抗原（1,2,3 は今シーズンのワクチン株）を用い、赤血球凝集抑制抗体（HI 抗体）の測定を行なった。

1. A パンデミック型：A/California（カリフォルニア）/7/2009（H1N1）pdm09
2. A 香港型：A/Texas（テキサス）/50/2012（H3N2）
3. B 型：B/Massachusetts（マサチューセッツ）/02/2012（山形系統）
4. B 型：B/Brisbane（ブリスベン）/60/2008（ビクトリア系統）  
今シーズンのワクチン株は、山形系統であるが、ビクトリア系統の代表として本株も調査対象となった。

#### [ 調査結果 ]

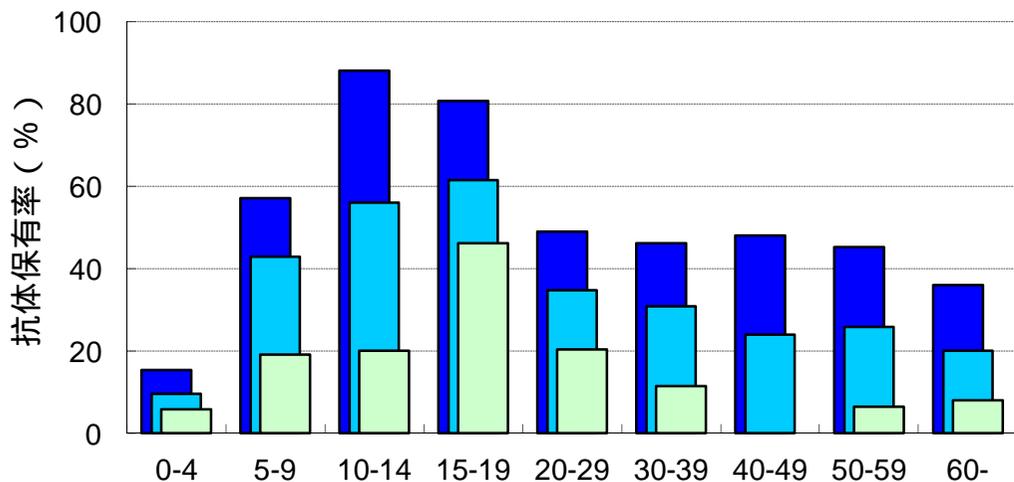
感染防御に有効と考えられる 40 倍（1:40）以上の抗体保有状況は以下のとおりであった。  
また、80 倍（1:80）以上および 160 倍（1:160）以上の抗体保有状況も併せて図に示した。

1. A パンデミック型：A/California/7/2009（H1N1）pdm09 に対する抗体保有状況  
10～14 歳群、15～19 歳群では 88.0%、80.8% と高い保有率であった。5～9 歳群、20～29 歳群、30～39 歳群、40～49 歳群、50～59 歳群では 57.1%、49.0%、46.2%、48.0%、45.2% と比較的高い保有率であった。60 歳以上で 36.0% と中程度で、0～4 歳群では 15.4% と比較的低い保有率であった。
2. A 香港型：A/Texas（テキサス）/50/2012（H3N2）に対する抗体保有状況  
5～9 歳群、10～14 歳群、15～19 歳群では 61.9%、68.0%、61.5% と高い保有率であった。20～29 歳群、30～39 歳群、40～49 歳群では 40.8%、50.0%、40.0% で比較的高い保有率であった。50～59 歳群、60 歳以上では 25.8%、32.0% と中程度で、0～4 歳群では 21.2% と低い保有率であった。
3. B 型：B/Massachusetts（マサチューセッツ）/02/2012（山形系統）に対する抗体保有状況  
15～19 歳群では 65.4% と高く、20～29 歳群では 57.1% と比較的高い保有率であった。10～14 歳群、30～39 歳群では 32.0%、38.5% と中程度であった。40～49 歳群、50～59 歳群、60 歳以上では 24.0%、16.1%、20.0% と比較的低い保有率であった。0～4 歳群、5～9 歳群では 0%、4.8% ときわめて低かった。
4. B 型：B/Brisbane（ブリスベン）/60/2008（ビクトリア系統）に対する抗体保有率  
5～9 歳群、10～14 歳群、30～39 歳群、40～49 歳群では 42.9%、40.0%、57.7%、52.0% と比較的高い保有率であった。15～19 歳群、20～29 歳群、50～59 歳群では 38.5%、38.8%、29.0% と中程度であった。60 歳以上では 24.0% と比較的低く、0～4 歳群では 1.9% ときわめて低かった。

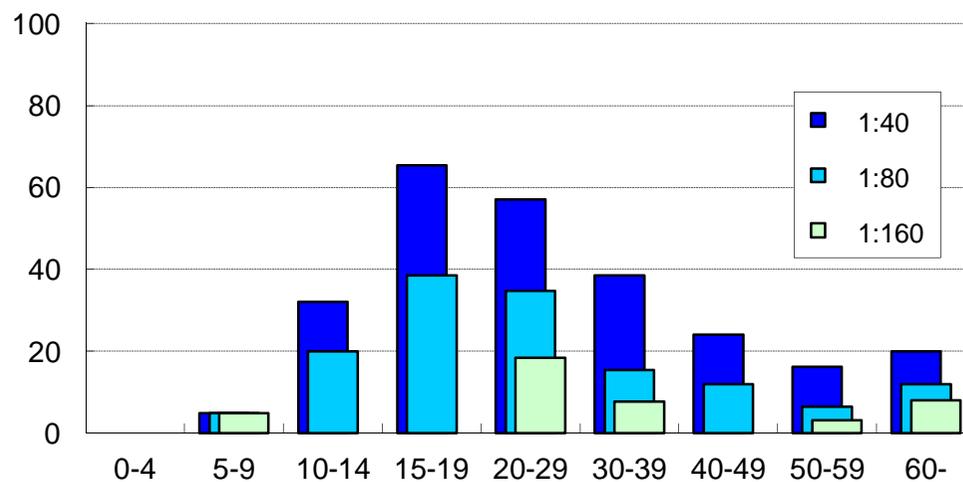
#### [ コメント ]

2012/13 シーズンは、全国的に AH3 亜型が流行し、次いで B 型が多く、AH1pdm09 亜型の流行は小規模であった。AH1pdm09 亜型と AH3 亜型、B 型（山形系統）について、40 倍以上の抗体保有状況は、前年度と比較すると AH1pdm09 亜型、AH3 亜型では大きな変化はみられなかったが、B 型（山形系統）では保有率の低下がみられた。AH1pdm09 亜型、AH3 亜型に対する年齢群別の抗体保有率は 5～19 歳で高く、特に学校等の集団生活においてインフルエンザウイルスに暴露される頻度が高いと考えられる年齢群ではその影響を受けたものと推測される。B 型（山形系統）では 15 歳～29 歳で高く、その他の年齢群は 40% 以下で、特に 0～4 歳群では 0% という結果であった。B 型（ビクトリア系統）では 30 歳～49 歳群で抗体保有率が高く、他の調査株における年齢分布の傾向と異なっていた。病原微生物検出情報によると今シーズンは AH3 亜型が優位となっている。また、感染症発生動向調査によると定点あたり患者報告数は、全国的な流行の指標となる 1.0 に達していないが、本調査で抗体保有率が低かった年齢群においては本格的な流行が始まる前の予防対策が必要である。

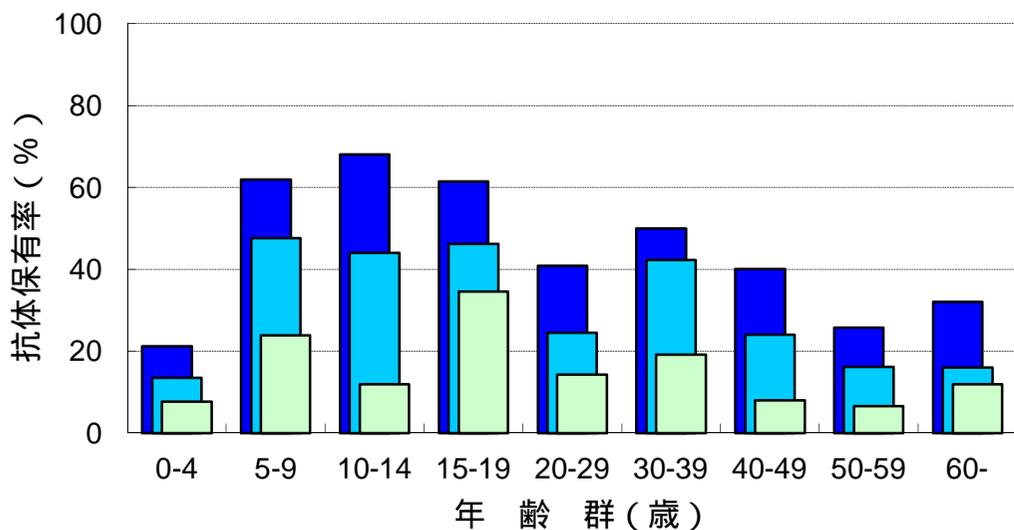
A / カリフォルニア / 7/2009 (H1N1)pdm09



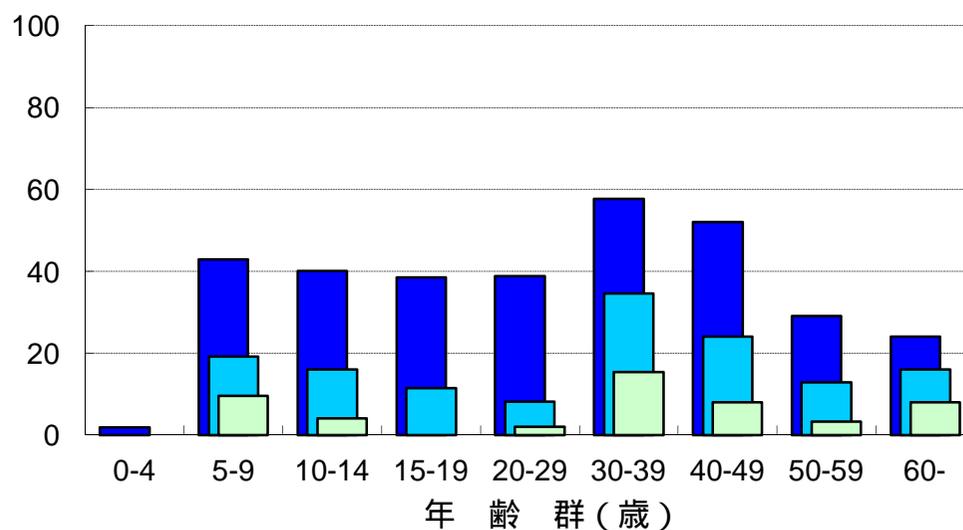
B / マサチューセッツ / 02/2010 (山形系統)



A / テキサス / 50/2012 (H3N2)



B / ブリスベン / 60/2008 (ビクトリア系統)



宮崎県における年齢別HI抗体保有状況 (2013/2014シーズン前)